

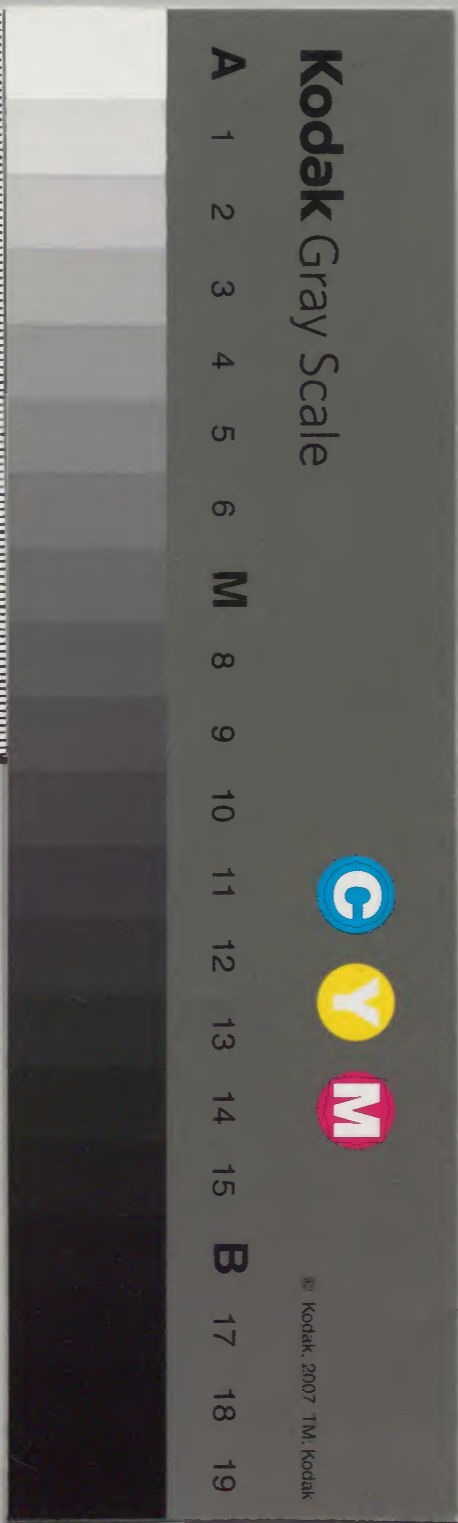
榊孫系編

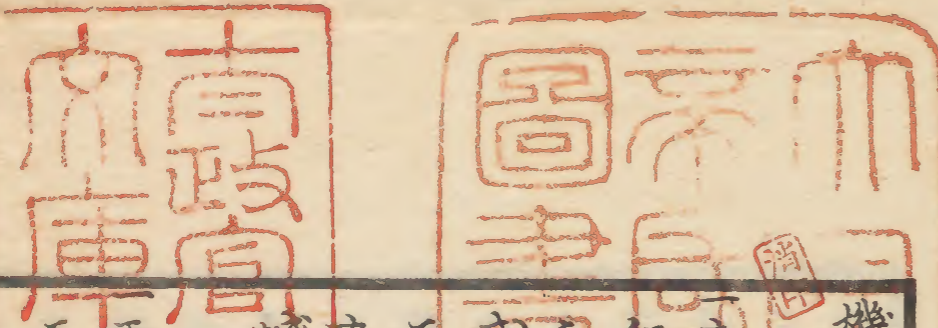
五

大政官文庫			
	一	和	
	二	書	
	六		
	九		
五	八		門
冊	架	函	獅

內閣文庫			
	二	和	
	六	書	
	九		
	七		
五	冊	架	類
函			

內閣文庫		
番號	和 11697	
冊數	5 (5)	
函號	153	629





機織彙編卷之五

組組こみに傳つた

夫糸とく織と歩と云其糸多し 籠と其元と為るよ
 組組の二つあり組と云平よ歩組と云列と云圓ありと
 云あり以方圓の二色と必て糸の大小又一色二色
 或ハ二色四色五色よ深たる糸と必其摸捺と極
 て織るあり機織と云遠よと云と必繭絲と必て製
 するより大同小異の沢われハ記之赴々武夫公候干
 城の助と云

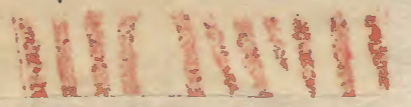
西表亀甲組にしうらかめがらみぐみの上段下段と左右仕掛十六手宛よ
 て六十四手あり色糸組ハ二色あり古代より二色の外



二百四十八番

全五本

五終



右の上段黒十二筋白四筋右の下段白十二筋黒四筋
 左の上段右の上段より組始む右の上段三ツめを上げ四ツ押へ
 初度上段より組始む右の上段三ツめを上げ四ツ押へ
 下段の向四ツを殊一上段の向の一ツをぬり左の下
 段へ糸を送る右の下段三ツめを四ツ上げ上段の向
 三ツ押へ下段の向一ツ殊一左の上段へ送る左上下
 段日一但一右より送たる糸めれ初は四ツめむべ
 ○二度目上段より始む右の上段三ツめを四ツ押へ五ツ
 上げ三ツ押へ向一ツ殊一左の下段へ送る右の下段
 三ツめを四ツ上げ五ツ押へ三ツ上げ向の一ツを左の上段へ
 送る左の上下段日一○三度目下段より始む右の下段
 三ツめを四ツ上げ上段の向三ツ押へ一ツ殊一左の下段
 へ送る右の上段三ツめを四ツ押へ下段の向三ツ上げ一ツ

殊一下段の糸を左の上段へ送る左の下上段日一
 ○四度目右の下段三ツめを四ツ上げ上段の向四ツ押へ
 下段の向一筋を取り左の下段へ送る右の上段三ツ
 めを四ツ押へ下段の向三ツ上げ上段の向一筋を取り左の
 上段へ送る左の下上段日一○五度目右の上段三ツ
 めを四ツ押へ五ツ上げ四ツ押へ下段の向一筋を左の下
 段へ送る右の下段三ツめを四ツ上げ五ツ押へ三ツ上げ
 上段の向の一筋を左の上段へ送る左の上下段日一
 ○六度目右の上段三ツめを上げ四ツ押へ五ツ上げ三ツ
 押へ向の一ツ殊一左の下段へ送る右の下段三ツめを
 四ツ上げ五ツ押へ三ツ上げ向の一ツを左の上段へ送る
 糸終り五六は情あり○七度目右の上段三ツめを四ツ
 押へ五ツ上げ三ツ押へ向の一殊左の下段へ送る右の下

戦国書林

腕三ツめと四ツ上げ五ツ押へ三ツ上げ白の一ツと左の上
 腕へ送る左の上下腕日一〇八度目右の下腕三ツめと
 四ツ上げ五ツ押へ向三ツ上げ残る一筋と左の下腕へ
 送る右の上腕三ツめと四ツ押へ五ツ上げ三ツ押へ白の一
 筋と左の上腕へ送る〇九度目右の下腕三ツめと四ツ
 上げ上腕の白四ツ押へ下腕の白一筋と取り左の下
 腕へ送る右の上腕三ツめと四ツ押へ下腕の白三ツ上げ
 上腕の白一筋と取り左の上腕へ送る左の下上腕日
 一〇十度目右の下腕三ツめと四ツ上げ上腕の白四ツ
 押へ下腕の白一筋と取り左の下腕へ送る右の上腕
 三ツめと四ツ押へ下腕の白三ツ上げ上腕の白一筋と取り
 左の上腕へ送る左の下上腕日一〇十一度目右の下腕
 三ツめと四ツ押へ五ツ上げ四ツ
 あり〇十一度目右の上腕三ツめと四ツ押へ五ツ上げ四ツ

押へ下腕の白一筋と左の下腕へ送る右の下腕三ツめと
 四ツ上げ五ツ押へ三ツ上げ上腕の白の一筋と左の上腕へ
 送る左の上下腕日一〇十二度目右の上腕三ツめと
 四ツ押へ五ツ上げ三ツ押へ白の一筋と左の下腕へ送る
 右の下腕三ツめと四ツ上げ五ツ押へ三ツ上げ白の一ツ
 と左の上腕へ送る左の上下腕日一〇十三度目右
 の下腕三ツめと四ツ上げ上腕の白三ツ押へ残る一ツの
 上腕の糸と取り左の下腕へ送る右の上腕三ツめと
 上げ四ツ押へ下腕の白三ツ上げ一ツ残る下腕の糸と左
 の上腕へ送る左の下上腕日一〇十四度目右の下
 腕三ツめと四ツ上げ上腕の白四ツ押へ下腕の白一筋と
 取り左の下腕へ送る右の上腕三ツめと四ツ押へ下腕の
 白三ツ上げ上腕の白一筋と取り左の上腕へ送る左

の下上段日一〇十五度目右の下段三ツあゝ四ツ上げ
上段の向四ツ押へ下段の向一筋と取り先の下段へ
送る右の上段三ツあゝ四ツ押へ下段の向三ツ上げ上
の向一筋と取り先の上段へ送る先の上段日一送て
日又二に借あり

一 右十五度の手教あり又初の手教お返る教度も
日一又別借よ二十六手まで上下の段系九ツ宛よ
上下左右と仕掛組とりどを亀甲の形免し〜
不直ありひ十五度の手教とひて秘りすとすべし〜

片表亀甲組方

片表亀甲組織左右共又上段下段と二段又仕掛る
手教ハ五十六手五十二手四十八手四十四手の四ツ

あり色糸ハ好まうすべし五色四色三色二色あり先
五十六手と四十四手の二ツひて教之其餘ハ准之て可
知

〇五十六手二色組

右上段紺一ツ白二ツ紺六ツ白一ツ紺四ツ 左上段日一

右下段紺六ツ白七ツ紺一ツ 左下段日一

〇四十四手二色組

右上段紺一ツ白一ツ紺五ツ白一ツ紺三ツ 左上段日一

右下段紺五ツ白五ツ紺一ツ 左下段日一

〇五十六手三色

右上段萌木一ツ白二ツ萌木一ツ黒四ツ萌一ツ白一ツ萌一ツ

黒三ツ

右下段黒五ツ萌木一ツ白七ツ萌木一ツ

○四十四手三色

右上辰萌木一ツ白一ツ萌一ツ紺三ツ萌木一ツ白一ツ萌木一ツ紺ニツ

○五十六手四色

右上辰萌木一ツ白ニツ萌木一ツ紺四ツ萌木一ツ白一ツ萌木一ツ紫三ツ
右下辰紺五ツ萌木一ツ白七ツ萌木一ツ

○四十四手四色

右上辰萌木一ツ白一ツ萌木一ツ紺三ツ萌木一ツ白一ツ萌木一ツ紺ニツ
右下辰黄一ツ萌木一ツ白五ツ萌木一ツ

○五十六手五色

右上辰藤色一ツ白ニツ萌一ツ紺四ツ藤一ツ白一ツ萌一ツ紫三ツ
右下辰紺五ツ萌一ツ白七ツ萌一ツ

○四十四手五色

右上辰藤一ツ白一ツ萌一ツ紺三ツ藤一ツ白一ツ藤一ツ紫ニツ
右下辰紺一ツ藤一ツ白五ツ萌一ツ

一五十六手ハ十四節宛^{まが}左右へ上辰下辰と掛^かる初度^{はつど}右の下辰三ツあ^ま四ツ上げ上辰の白一ツ押へ下辰の白の残^{のこ}る一ツと左の上辰へ送る右の上辰三ツあ^ま四ツ押へ下辰の白一ツ上げ上辰の白の残^{のこ}る一ツと左の上辰へ送る左の下辰上辰日一但右系をよめられハ一ツあ^まて初^{はつど}るべし如^{ごと}く教^して幾度も組まり

一四十四手ハ十一節宛^{まが}て左右へ上辰下辰と掛^かる初度^{はつど}右の下辰ニツあ^ま三ツ上げ上辰の白の三ツ押へ白の残^{のこ}る一ツ辰の糸と左の下辰へ送る右の上辰ニツあ^ま三ツ押へ下辰の白三ツ上げ上辰の白一ツを左の上辰へ送る左の下方辰上

戻り一但一右系を二送りたる如く三ツめきて細むべし

織毛糸系刀柄系方組方

一織糸柄系に於て皆一戻仕をまり三十三手より右方十七
 手左方十四手より又十九手より右十五手左十
 手より是もわり或ハ七手より右十手左十二手
 手の時ハ右十三手左十二手より此大凡通例に手
 殺よりひより多くも又少くも好次ありべし長さハ一節六
 尺寸は織毛の定寸に柄系ハ其柄の長さよりよるべし
 一織方ハ三ツ押へ三ツ上げより此順に編む向の一節と右の系
 と左へ編たるるを一通り是より柄系の組方よりを荒
 ハ不為しと荒く考ふる斗り之又四ツ押へ四ツ上げより
 組ハ具宜の織毛より然とも織毛柄系ともは両極の編
 方と用てより一糸ハ延尺一尺三寸五分編り

啄木其畦目

一啄目より手数織毛より一唯色糸と組こ交する
 斗りあり

一五色ハ右方白四ツ萌木四ツ紅三ツ紺三ツ黄三ツ左方
 白三ツ以下右方より一以三十三手の糸組あり并
 九手七手五手ハけ色糸の中の目より立糸と二
 本よりとも四本よりとも考へ織すべし

一四色ハ五色の糸の中一色減すべし三色ハ五色の中二
 二色去る

一畦目も啄木と同し

一高懸組

一戻仕裁より二ツ押二ツ上げの手殺より組むより糸
 通り方如織糸

ささ波歩

二股仕をく系一筋宛の向の系三筋と一度編じ
乃と通す左右の然之但し右ハ押へて始り左ハ揚て始
る又中筋と附るよハ始の系三本押へ其後ハ一本宛
如若あむあり

わんど歩

二股仕掛りて系一ツ宛の向の系一本と編じ
通す

繁歩

一ツ組ハ刀の下緒より一筋仕をくして右五本左四本
の上九本あり編方ハ二ツ押へ二ツ上げ向の一本とめ
し右より通し右ハ左へ廻るあり

袋歩

二股仕を四十八手下股より組ミ始て三ツ押へ三ツ揚け上
股の二ツ押へ下股の向二ツと踏し右の時ハ左左の時ハ
右の下股へ送る上股ハ三ツ揚け三ツ押へ下股の二ツ揚け
上股の向一本踏し上股へ送るハ四十八手も不参又
幾手もても同一

下緒組方 具の口と云

一 下緒長さ七尺五寸ハ本尺あり又ハ七尺二寸もする
系目方ハそへ系一尺ハ付魚目二女位と知へし
二 股仕をく下股より組初り五十手ありきり玉一ツと
そへ系十六筋宛付て一本とす下股の三本揚け三本
押へ三本揚け上股の向三本押へ下股の向一本踏し系
と通す時通す系と向へ捨りて通すべし次ハ上股の系
三本押へ三本揚け三本押へ下股の向三本揚け上股

の向一本と通す時糸へ因り捻とをて通す次は左方の下
段と組へ

龍虎抄 下緒より

一五十二手二段仕懸色組ハ二色あり上段左右共白下
段左右共黒系あり
一上段より始り一本押へ三本揚げ二本押へ二本揚げ下
段の向三本押へ下段の向一本残して右ハ左へ通し左
ハ右へ通すと組へ上段ハ一本揚げ三本押へ二本揚げ二
本押へ下段の向三本揚げ上段の向一本通すへ次は
下段二本押へ二本残して通す上段の系二本残して二本
本押へ下段の向一本残して通す上段の系二本残して二本
押へ二本残して二本押へ下段の向三本揚げ上段の向一本
残して其糸と通す

糸仕懸組方

一組臺の向の糸巻機の藤と目は糸巻玉と糸と巻て其
端と鑑い付る二段仕懸の時ハ上段下段と糸と分ち左
右の糸をのたまふ玉一つ宛掛て玉と下へさけ一段仕懸
の時ハ上段斗へ左右玉とを組臺の上と鑑と鑑と
糸と編へ先を向へ扱きて其編の宛たる所へ向の
一玉の糸と通して右を左へ送り織花の方のたまふ
る其時鑑と軽くおろしむ織毛等ハおろし不改玉
の重りて糸をまとるより組糸よりおろしあり
糸加減ゆるいゆるい糸と村おて耳不揃り別は二段懸
杯ハ其加減大より一段仕懸をくとも柄糸ハ糸のたまふり
不揃りて甚見若ものあり備籠歩終ハ又左の方と
組へ二段の時右の下段と組へ右の上段と組へ

抄卷五

左の下段と紐むすあり尤系と手と多く付れハ先澤
忍しくある又さけたる玉と長紐されハ系の占よ不目
わり玉より系と延べ出時と不引極すべし大概向の
懸より紐たる所五六寸とまれハ向へ巻附可紐さうあり
又紐帯の方へ紐つむれハ系と村あるものあり紐終て
畳と榨本と極くくさびと打て十日程盡べし尤初
又板の上と紐たる系と盡ておろしとをて後榨本
とを占よに傳めり

一榨本ハ二寸の厚の板長さ二尺五寸位幅六寸斗り上下
二枚うして二寸位の柱と二本内の一尺二三寸うして左
右へ立其柱の中は穴と明け貫と通し上の板とさけ系と
極く貫の上は柱の穴へくさびと打て盡あり
右と組系の傳法あり紐系の種類数多ありといふ

とも手敷の葉とむてハ前又記の外なる唯
系の彩色の著るのふして自う系の紐方も
遠く極よえゆることありハ紐方と知る時ハ其
模極と紐出よとませハ自然と成就す古代の
右刀の上帯と桐の紋と紐したるもあり又近
世の物と極くの紋と出たる紐系あり皆紐方と
業両表龜甲片表龜甲具の口の手敷と不
之共多系の出る所と窮理せば新製の工又
古代の物と模写するよ自在ありと知へし
不筆記よ不及是以て口傳と砂す平紐系の
傳極る

源氏抄又攝寺或ハ鷹の羽抄又ハ龜甲とも云

織成集編五

振舞草紙五

一系数三十二節と八節と四方へ置くを^{イロ}成系^{イロ}步^{イロ}臺^{イロ}
あり步方ハ節の中の二節と向次よ向の中の中二節
と節よ置き右の中の二節と九次よ九の中の中二節
と右よ置き他一穴めハ中の二節置く時ハ両端よ置
まり

一色組ハ節よ白白白萌^{イロ}萌^{イロ}白白白まり右の方日
九の方よ紫紫紫紫萌^{イロ}萌^{イロ}紺紺まり向の方日
此四色組まり五色の時ハ此四色よ一色増すと四色
の中く色とまりて色多くすべし其外二色三色以
是可考

一延尺一尺五寸まで大九一尺よお上ると知べし
から步又十六歩と云

一系数十六節と九步臺よ節向左右と四節よ四節宛

置いて順廻りよ二本越よ步次よ逆廻りよ二本越よ步まり
尤上へ九臺まり

一色組ハ節よ萌本紺萌本紺九の方日く向よ白四本右
の方日く又前方よ白白萌本紺向の方よ紫薄紫白
白右の方四本共白九の方薄紫紫紺萌本と置まり

一唐^{イロ}步ハ中よ穴めよ出まりるれハ系の目方おくくして
中よ真とへておへしお縮^{イロ}源氏おま日し

一廿四步ハ六節宛四節よ置く三節越よ步まり

一三十二步ハ八節宛四節よ置く四節越よ步まり

一系よ捻^{イロ}とをるハ九へ廻る系ハ右へ捻り右へ廻る系ハ九へ
捻りをるまり

ハツ步列方

一系数八節と四節よ仕をて系一節越よ步まり

一系の歩縮ハ如前文

一色組ハ前の方ニ萌本紺向の方ニ白ニ節尤ニ紺萌本
右の方白ニ節此三色まり二色の時ハ紺白と一ツ交ニ
仕をる縄目仕掛ハ前と向ハ白之右と尤ハ紺まり諸
歩の仕をハ前の方を紺向の方ハ白右の方ハ紺と白尤
の方同

一四角のハツ歩ハ常のハツ歩の如く仕をて二本越ニあり

四ツ歩

一系殺四節前二節向一節尤右一節宛まり一節越ニあり

三ツ歩

一系殺三節まりあり

松皮歩

一系殺八節まり初一本越ニて尤へ歩次ニ越たる系共ニ

二本越右より尤へ廻り歩幾遠も同

一系七節感ハ九節まりも歩まり九節の時ハ三本越まり尤越
ませたる系共ニ三節越まり

一系の色ハ紺白白紺紺白白紺とをる

籠歩

一系二本より石畳ニ紐上るまり一本の系ハハツ歩ウ四ツ歩
の系ニ以て紐べ

駿河歩

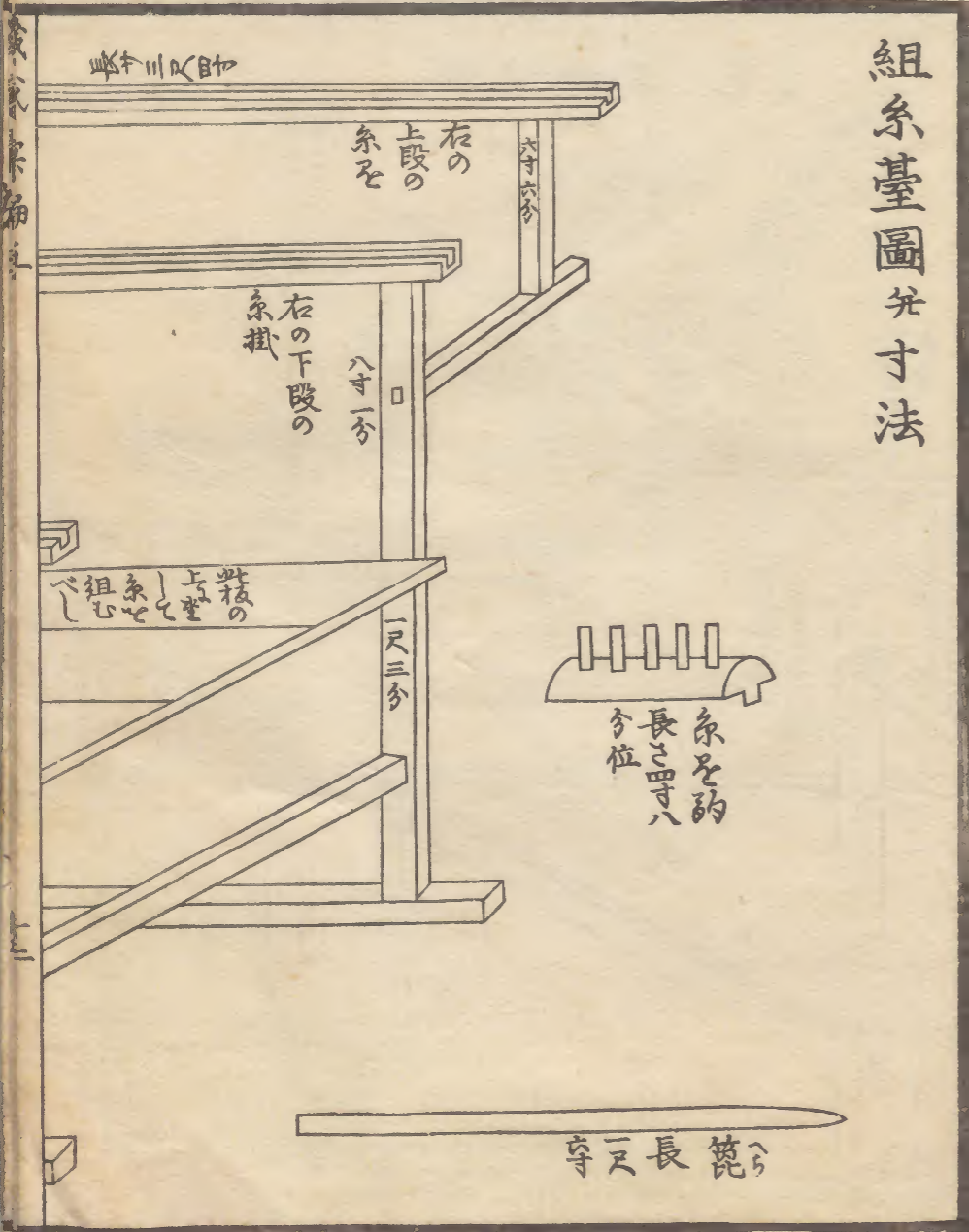
一駿河歩ハ平組の系ニ然も若又ニ述る平組とハ遠ふまり
系殺ハ不定まり向へ結て糸の方へ上下ニ系をて尤
右一本宛五方へをる組方ハ下系と上ニ上げ上系と下
へさげ右捻り尤捻りニ成る極ニ幾本まりても紐て尤太
の系とより遠て上下の系の片へ通一をる如以幾遠も紐

べしおし丸接しと丸接しとて矢筈の如く組て筋付の
略法よ丸接し丸接しと幾筋も素せて服の方より針小
糸と付綴て違へ

糸巻玉之口傳

緘糸亀甲又ハ啄木ハ玉のを目五分目位
柄糸ハ玉の掛目五分目より五分目五分位
下緒ハ玉を目十五分位より二十目位より
源氏抄十六歩ハ歩智ハ糸の長さ二准して玉の掛目五分
目或ハ十分又ハ十五分の玉と用也丸糸の細き時ハ玉のを
目の細さと用也ハ
糸巻玉ハ糸をりのり玉と水干して丸く一玉中の糸と
を巻玉と窪り干て紙糊りて紙と三四返張りて用也ハ
方高口傳り

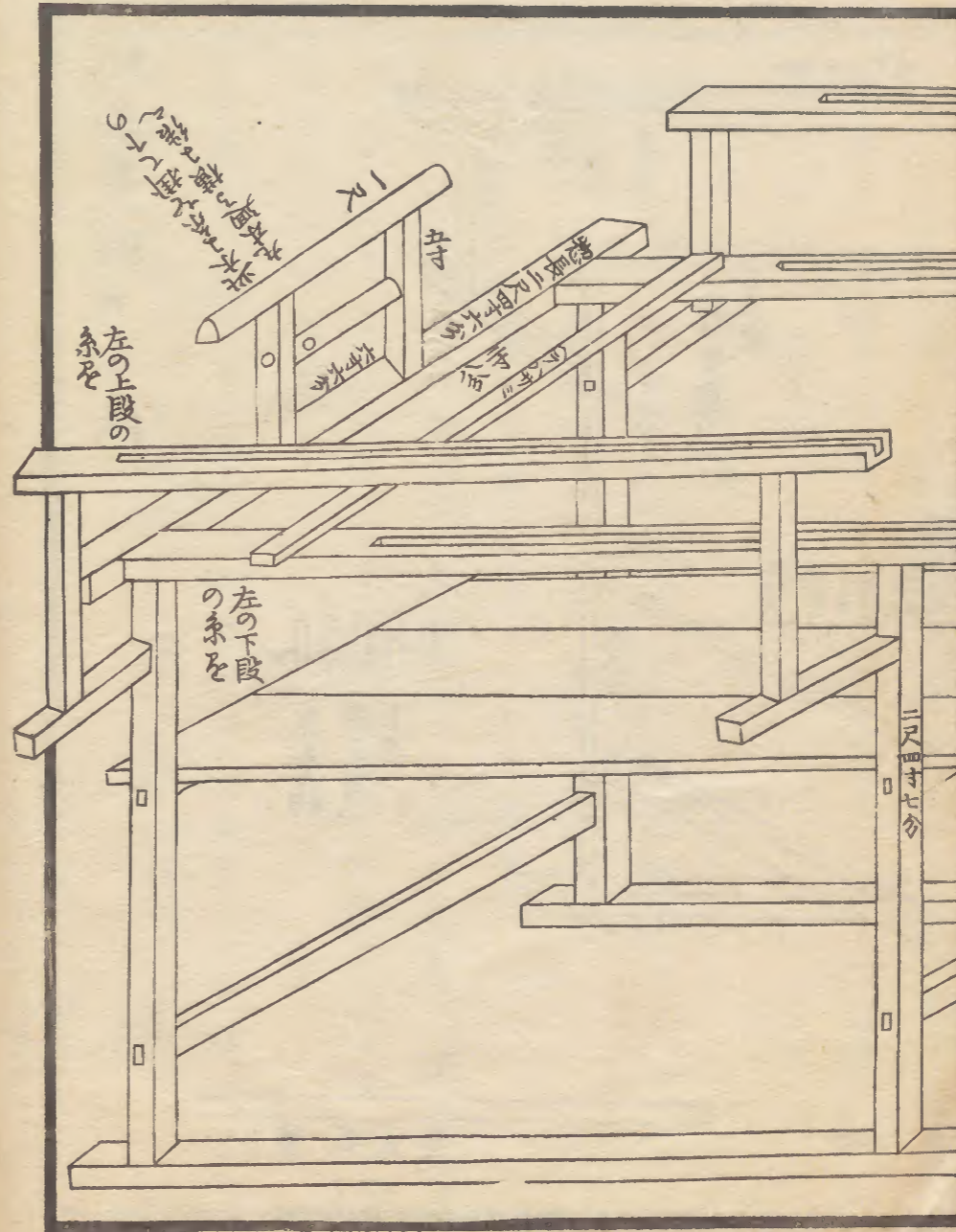
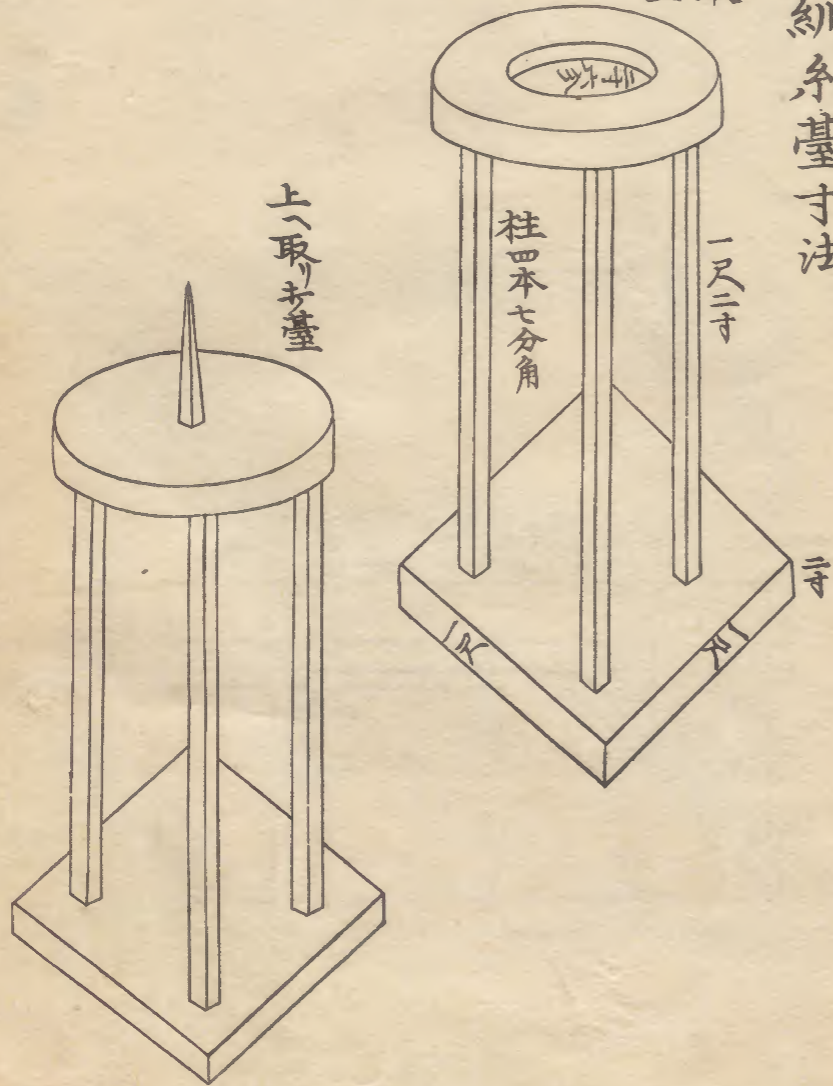
組糸臺圖并寸法

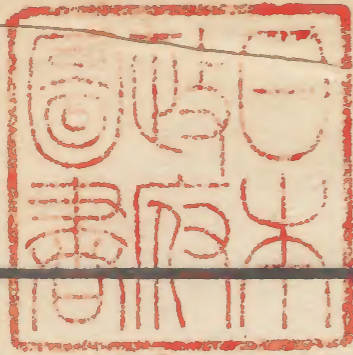


紉糸臺寸法

下取
糸臺
此糸臺差渡七寸五分

上へ取り糸臺





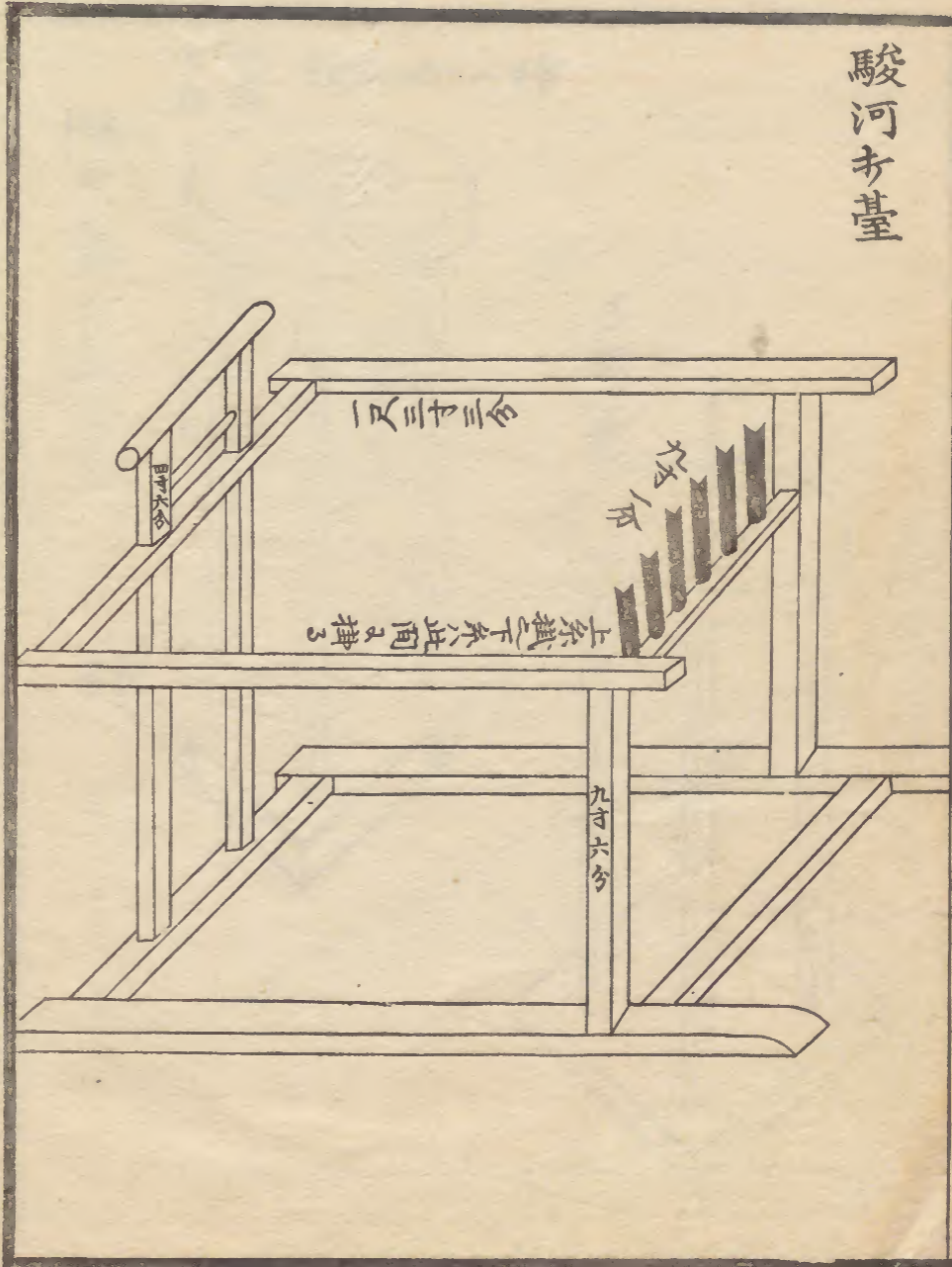
機織彙編卷之五終

機織彙編五

右ハ糸と組紉する秘訣あり尚口傳と承すくなく
 又さきさ織ハ堅糸と延て衲織の如く織るハ別
 記るに不及之盛ハ組紉共ニ腕口と付杯の傳めれ
 巨細ニして不記して自然ニ工更につくべき
 不記之

無臺手として組方
 一左右のより糸とを向へ木と立結ひ一手組てハ篋ニ紐と
 付垂足の指を足と引ておこし組まて織毛糸柄
 系嗽木或ハ源氏步又四角お等と組之に傳

駿河方臺



機織彙編五

五

古道を尋ねて来りて古はるる
 の志み此すゝを打拂ひし
 志なきあつて撰り出せし中
 絹おる業を自集めし女
 ありぬ男も女もなきは是を
 賤うからるるをさしうい
 さい是をばさるる老を養ふ

ありぬくまひつよみもやあり
あんとく文政九の年あさう
この書鳩の筆傷の里よきう



文政十三庚寅八月

發行書林

京都寺町通松原下ル

勝村治右衛門

同富小路三条下ル

須原屋平左衛門

大阪心齋橋安道寺町

秋田屋太右衛門

江戸日本橋通壹丁目

須原屋茂兵衛

同日本橋通四丁目

須原屋佐助

